

におこう

仁尾港（県管理地方港湾）

仁尾港は香川県西部、仁尾町に位置し、鶴と亀の形をした、大鷲島、小鷲島により波をさえぎられた天然の良港です。

仁尾は室町時代、四国管領細川氏の守護所が置かれ、瀬戸内海の海上交通の要衝であり、かつ天然の良港を持つ立地条件を生かして発展の基礎を築き、江戸時代には丸亀藩から醤油、酒、酢等の製造販売の特権が与えられ、また、茶、綿、生糸などの生産と取引により、港町として大いに繁栄しました。

また、江戸時代後期から大正、昭和にかけては約 76ha にわたる大規模な塩田の造成を行い、港は製塩の積出しで賑わいました。

昭和 47 年に塩田は廃止されましたが、その跡地は新しい時代の要請に応じて現在では、住宅用地、公共施設用地、レクリエーション施設用地、水産関連用地等に整備され、また港湾整備においても物流、漁業関連施設等を有する新しい埠頭の建設が、昭和 56 年度より行われています。

本港は、その良好な自然を生かして本県の海洋性レクリエーションの西讃地域の拠点としてマリーナ整備を行い、平成 5 年の東四国国体ではヨット競技会場として利用されました。

